

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	令和4年度 第4回高松市在宅医療介護連携推進会議
開 催 日 時	令和4年11月9日(水) 19:00~20:15
開 催 場 所	高松市医師会館 2階 大会議室
議 題	1 退院支援・医療介護連携部会より 2 在宅医療コーディネーター部会より 3 多職種連携部会より 4 ICT 部会より 5 在宅医療支援センターの報告について 6 その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出席委員	16人 吉澤委員長、大原職務代理、井上委員、大橋委員、片山委員、北代委員、香西委員、田中昌委員、辻委員、永岡委員、橋本委員、花房委員、林委員、松本委員、三橋委員、和田委員
関係者	市医師会事務局(4人) その他: 医師会(伊藤会長、香西副会長、西口理事、塩見理事、井垣理事、香川理事)、県長寿社会対策課(出口主任)
傍 聴 者	0人
担 当 課 及 連 絡 先	長寿福祉課 地域包括ケア推進係    839-2346 在宅医療支援センター    839-2344 介護保険課    839-2326 地域包括支援センター    839-2811 保健対策課 地域医療対策室    839-3805

### 協議経過及び協議結果

#### 1 退院支援・医療介護連携部会より (Q 委員より説明を行った)

##### 【第2回 医療介護連携ミーティングについての報告】

日時: 10/15(土) 14:00~16:45    開催方法: ハイブリッド形式(Zoom ミーティング)

参加人数: 122名(申込者数:134名)    内容: テーマ「困難事例を考える ~食べられない~」

○講演 演題「地域で行う食支援 食べられなくなる要因とその評価と対策」(オンライン参加)

講師 地域栄養ケア PEACH 厚木 代表    管理栄養士 江頭 文江氏

○パネルディスカッション: パネリスト 5名(会場での発表)

内科医、歯科医、脳神経外科医、理学療法士、歯科衛生士(施設)

- ・栄養士ならではの発想で、大変分かりやすい説明であった。
- ・アンケート結果から、参加者にとって非常に分かりやすい内容であったと感じた。
- ・地域での多職種連携についての点数: 平均5.8点(前回 5.6点    0.2点アップ)

・今後は、オンデマンド配信や管理栄養士を委員に加える等検討したらどうか。食支援は、あらゆる職種が関わり、皆が参加しやすいテーマでもある。また、この取り組みを続けたい。

#### A 委員

活発なディスカッションで時間が足りないくらいで非常に良かった。今後も、良いテーマを見つけて、やっていきたい。何か欠けているものが分かる機会にもなる。アンケート結果の確認をしてほしい。

### **2 在宅医療コーディネーター部会より**(C委員より説明)

・1回目～6回目開催予定で、11月1日に第1回目を開催した。参加者39名(うち行政枠4名)  
・訪問診療への現場への同行訪問は、感染予防のためビデオ学習とする。その後、グループでディスカッションする。

#### A 委員

・今年で8期生となり、養成研修修了者が300名を超えた。地図にプロットすると市内全域にコーディネーターが散らばっていることが分かる。  
・1回目の研修では、皆が熱心に受講していた。残り5回の講座を頑張してほしい。

### **3 多職種連携部会より**(B委員より説明) ※この後に、部会開催

・2月11日(土・建国記念の日)、午後 場所：高松市医師会館5階ホール ハイブリッド形式  
・講師：武田以知郎医師 奈良県明日香村国保診療所管理者  
・皆さんに役立つ内容を部会で企画したいと思っている。何か要望等あれば部会へ伝えてほしい。

### **4 ICT部会より** (事務局より説明)

#### 【在宅ケア便利ナビデータ更新】(長寿福祉課より説明)

関係機関のデータの更新作業中

#### 【医療介護連携ツール】

前回の会議で示した、kintone(キントーン：非公開型のツール、クラウドサービス)について、意見等お願いしたと思うが、まだ、フォームを作成中である。各委員は、前回の会議開催日にデモ画面のURLをメール送信しているので、今一度、中身を確認し、ご意見をいただきたい。

#### A 委員

・在宅医療介護情報サイトは、医師会のホームページのサイトのバナーにも載せているので、確認してほしい。当会議の議事録も掲載されているので併せて確認してほしい。  
・ICT部会でお知らせした「キントーン」は、いろいろな業種で浸透しているようである。動き出せば便利なツールだが、維持費等の問題もある。一方、県が進める、K-mixRは、ユーザーが限られている(医療機関、薬局等)。

### **5 在宅医療支援センターの報告について**(在宅医療支援センターより説明)

・11/1～新規採用職員(相談員)の紹介  
・9・10月の活動報告を行う。【相談件数】9月：13件10月：9件  
《相談事例紹介》9月中に2回相談があった事例  
・9月：1件当たりの相談にかかった時間が非常に長いものがあった。

#### A 委員

- ・市の在宅医療支援センターの職員配置について要望している。
- ・市は、居場所づくり事業の中で様々な介護予防に取り組んでいる。その居場所を中心に在宅医療支援センターが出前講座にも出向いている。

#### C 委員

- ・事例の中で介護保険の主治医意見書を書いてくれなかったと報告があったが、本来は、ルール違反だと思う。抗がん剤を投与し、一人で自立して通院もできない状態や、人工呼吸器を装着し、夜間の喀痰吸引が頻回であれば、自立が難しくなると思うので主治医意見書を書けると思う。そして、認定を受けてから、夜間、訪問看護にサービスに入ってもらい喀痰吸引を頻回に行ってもらえば自立も可能になると思う。

- ・困った時には、とりあえず支援センター等関係機関へ電話をしてもらって、対象者が何を望んでいるのかをよく傾聴することが大切である。相談するということは何らかのサインでもある。

#### A 委員

B 委員が講師となり、主治医意見書の書き方の講座を行っている。主治医意見書を書くのは、その人の生活の全てが分かる人が望ましい。誰が、どのタイミングで書くのが一番良いのか、啓発も必要である。

#### B 委員

高松地区は、他の地区とは主治医意見書の書き方(主治医へ記入を依頼されるまでのルート)が異なる。

## 6 その他

#### A 委員

- ・12/18(日)香川県地域包括ケアシステム学会学術集会にて2題の発表がある。入会は、会費無料なので、ホームページからアクセスして入会してほしい。今後、この会議の事業等イベントも発表していきたい。

#### 【本会の今後の在り方について】

- ・来年度は、今年度の事業を継続する形になる。
- ・委員の中に管理栄養士を加えるのはどうかと考えている。会議の設置要綱等の改正が必要になる。
- ・この会議は、平成26年度に発足し、来年度で10年目となるので、来年1年間かけて検討していきたい。

#### <検討する内容>

- ・4つの部会の構成…退院支援医療介護連携部会でのミーティングと多職種連携部会での研修会が似通った内容になっているので、例えば、この2つの部会を合わせる等。
- ・委員の人数
- ・在宅医療コーディネーターの養成研修をいつまで実施するのか、どのように活用するのか(今年度で8期目となる)。
- ・市民公開講座もコロナ禍のため市民への啓発ができていない。ポストコロナに向けての事業をどうするか。

#### C 委員

- ・今後の運営の仕方として、これだけ専門職や行政の職員が集まる機会はあまりないので、地域で起きている問題を掘り起こして解決していく場にしたらどうか。

・地域で埋もれて、医療・介護関係のサービスを受けられていない人、介入できていない人等に対し、行政とタッグを組むことが大切ではないか。

**A 委員**

・全体的で、抜本的な見直しとしたいので、良い意見、アイデア、先進的に行っている自治体の情報等を見習う等 10 年目に生まれ変わりたいと思っているので、今後はそれに向けての話し合いをしたい。

**【次回の会議】** 令和 5 年 1 月 1 1 日（水） 1 9 : 0 0 ~ 高松市医師会館